

令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）関係事業の検証・評価結果

No	交付対象事業の名称	交付金の種類	交付金実績額	本事業におけるKPI(重要業績評価指標)				自己評価		外部有識者からの評価		次年度以降の取組等	
				指標	事業開始前	実績値	令和4年度KPI	事業の評価	担当課自己評価	事業の評価	外部有識者からの意見		
1	別府ツーリズムバレー創造プロジェクト	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	21,183,672円	指標①	起業・創業件数	- 件	74件	71件	基本目標を達成するために、非常に効果的であった。	地方創生推進交付金最終年度である令和4年度は、地域再生計画「別府ツーリズムバレー創造プロジェクト」に記載する多くの施策を実施できた。 また、本プロジェクトを行政だけでなく、ハブとなるB-biz LINKはもとより、多くの関係機関・企業と協働することで、起業・創業の機運を高めることができた。 今後「起業・創業等の推進」、「人財育成」、「ヒト・企業とのつながりを強化」の3つの柱とする「別府ツーリズムバレー構想」に基づく施策を継続していくことが必要と考える。	基本目標を達成するために、非常に効果的であった。	・しごとの創生を目標としているところだが、今ある産業の維持という意味では事業承継も重要と考える。 ・8千人の大学生がいる別府で、大学生を一人でも多く地元に残す施策が必要、マッチングの場を設けるのは良いことだが、学生自身が別府にどんな会社があるか分からない、各大学に就職支援のセクションがあるの、学生たちに別府の企業を紹介するような取組みをぜひしてほしい。	「別府ツーリズムバレー構想」の3本柱に基づき動き出したプロジェクトを今年度も継続していくことで、様々なサポートや協力が得られアイデアを実現しやすい環境を構築し、あらゆるト・モノ・カネ・情報が集まり、観光産業ビジネスの発祥の地となる基盤づくりに取り組む。 また、各種プログラムに参加した起業家等がメンターとなることで、より有効なコミュニティを形成していく。
				指標②	起業・創業相談対応件数	559件	615件	589件					
				指標③	大学等と連携して実施した講座の受講者数	- 人	32人	30人					
				指標④	BEPPUサポーターズのメンバー数(累積値)	- 者	102者	90者					
2	伝統的工芸品別府竹細工イノベーション推進事業	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	1,790,000円	指標①	竹細工市内製作者数	59人	54人	65人	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	依然としてコロナ禍で海外からの入国制限等の制約に影響を受ける中、将来的な課題解決を図るため、竹細工の認知度向上のための情報発信や国内外の販路開拓の支援を行った。 竹細工市内製作者については、高齢化により減少を続ける一方で若者が参入し、目標値は満たさないものの一定数を維持し、竹工芸訓練センター修了者の市内就職者数は目標を達成することができた。 また、竹細工伝統産業会館の外国人客はコロナ以前に比べ減少しているが、徐々に入国が回復する中、指定管理者によるワークショップやイベント等を通じた積極的な情報発信を行い、誘客に繋げている。 新製品の売り上げに関しては、目標を達成しておらず、展示会等による発信を継続的に実施することが求められる。	基本目標を達成するために、効果があつた。	・竹製品は本当によく売れ、海外からの問合せも多い。製作が間に合わず、半年待ち1年待ちが当たり前になっている。竹細工の課題①担い手不足、④海外関心度対応不足に関し、販売者としても、そこが改善されることを願っている。販売窓口の拡大も。 ・市内でも別府竹細工の専門店はかなりあつたが、小売店舗がどんどんなくなった。竹細工の原点をもっと訴えていき、新製品を作るだけではなく、竹細工の魅力発信と実際販売する店舗をマッチングさせなければ、別府の竹細工を残すため突き詰めていただければと思う。 ・別府市による人材育成事業費がなく、販売しか考えていない。市として、人材育成、人材創出事業にも取り組むべき。 ・担い手不足のところで、そもそも竹細工職人だけで生活として成り立たない話を聞く。対策として当然、販路拡大はあるが、生活として成り立たないことについて、何が原因・支障となっているのかの分析が必要。 ・別府竹細工の歴史についても、ビハインドストーリーを、市民を始め多くの方に知っていただくため、どの時点でどう竹細工が生まれたのか、別府市誌とも関連付けながら一度整理していただくとよいと思う。	引き続き、竹細工等の制作者の育成及び定着を図るため、販路開拓・拡大のための支援の継続や竹工芸訓練センター訓練生のニーズ調査を行い、関係機関との連携の下で課題解決に取り組む。 また、現代のライフスタイルに合った新製品の開発、販売や海外でのプロモーション等別府竹細工及び産地としての認知度向上の取組を実施し、産業の振興と継承を図る。
				指標②	竹工芸訓練センター修了者の市内就職者数	2人	13人	11人					
				指標③	別府市竹細工伝統産業会館への外国人入館者数	930人	401人	1,580人					
				指標④	竹細工新製品の売り上げ(個数)の伸び率	100%	78%	130%					
3	すべての世代が活躍できる健康寿命延伸プログラム	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	12,621,732円	指標①	健康寿命延伸事業の参加者数	- 人	842人	2,000人	基本目標を達成するために、効果があつた。	令和3年度はコロナ禍の中で事業参加者を200名と限定し、参加者を募集した。今年度は事業参加者を市民や市内に通勤・通学している方へと対象者を拡大し、7月から1月末まで事業を実施した。参加者の世代は20歳未満から80歳以上までの幅広い市民の参加が得られた。 別府市「みんなで健活ポイント」事業に参加した方の結果として、事業開始時点からの変化をみると3か月ごとに歩数の増加がみられた。 事後アンケート結果によると「歩数が増えた」や「歩くことが習慣になった」として、事業参加者における運動習慣の増加・改善の変化が見られるなどの効果を確認できたことから事業実施についての効果があつたものと評価する。また食に関する介入の結果、朝食の欠食、食事の味付けの濃さなどについても改善傾向が見られるなどの効果を確認できた。 課題として、利用者の利便性の向上と広報の仕方等について改善すべき点が挙げられるため次年度以降の取組みに改善を図っていくとともにベースライン+1500歩を達成できる取組を図っていく必要がある。	基本目標の達成に効果がなかった。	・KPI②医療費抑制効果額達成率がわずかに2.4%。数値だけ見ると効果があつたとはいえない。 ・健康教室に行く移動手段がない方など、事業参加が難しい方のデータも本来のデータをとる必要があるのではないかと。市民全員が健康で過ごせるように、データづくりを行っていただきたい。 ・健康に投資することを十分に理解する人はわずか。政策的に、全市民に配布するなどするとデータとりやすい。 ・大学生は健康に無関心。大学内で健康フェスタを開くなど、きっかけをつくっていただくとありがたい。 ・市内に栄養学科がたくさんあるのは別府市の魅力・強みだと思う。ぜひこのプロジェクトに活かしていただきたい。世代によってフォーカスする部分を変えてみるととも効果につながるのではないかと。 ・このような地域は別府しかない。健康意識の高い学生が別府に多いのを活用しない手はない。自治会にどんどん大学生に入ってもらい、大学と市が連携して課題解決に取り組んで、それに若い人たちが積極的に参加していくと相当盛り上がる。若い世代と高齢世代のコミュニケーションの場が増える。そういう地域連携、大学との連携を施策として取り上げてほしい。 ・データ・数値の見える化、これは素晴らしい。健康は大事というのは皆分かっているがなかなか実行できない。身の回りの環境を変えていくことが大事。	令和5年度事業では、対象者である学生、企業、医療福祉関係者、本市の実施している健康教室参加者等の団体、個人を中心に積極的な働きかけを行い18歳以上の健康関心層から健康無関心層まで多くの市民の参加ができるよう引き続き取り組んでいく。 市内各所で参加者が活動量計やアプリ、体組成計を用い自身の体の中を数値化し、「見える化」することで体の状態を把握でき、的確な健康管理に寄与できる事業であること、加えて本市の保健師、管理栄養士、運動指導士による個別相談等で専門職による適切な指導やアドバイスを受けることで、自主的な行動に対するポイント付加事業などの本事業に参加することで付加価値を加えることで、参加者自らの健康づくりに対するモチベーションを保ち、運動に加え食事にも目を向けながら楽しく健康づくりを行えるよう取組みを図っていく。 地域住民に本事業の啓発を行うために、中規模多機能自治区を活用してイベント期間中にチーム内の総計歩数を競うチーム戦を試験的に開催予定である。 また、地域ごとの健康課題の提示や健康意識を高められるようにあらゆる機会を通じ働きかけを行うことで市民の更なる意識変容と行動変容を促し、将来的に実施主体を行政から市民、民間団体へ移行を図り、参加者が自ら企画立案し健康事業を行えるようにサポートする取組を行っている。
				指標②	健康寿命延伸事業による医療費の抑制効果額	- 千円	1,645千円	70,000千円					
4	ICTを活用したインバウンド及び国内客誘致受入事業	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	19,493,000円	指標①	オーストラリアからの入込客の増加数	- 人	0人	700人	基本目標を達成するために、効果があつた。	3カ年事業の最初の2年間はコロナ禍における行動規制等により、オンラインでの商談や情報発信を主としてきたが、令和4年度は水際対策等が緩和されたことにより、対面での商談会の参加や旅行商品の造成などの事業を展開できた。 ※令和4年度実績値は、令和3年度実績値との対比であるため、達成度が大幅に向上している。	基本目標を達成するために、効果があつた。	・インバウンド上位3国が、1位韓国、2位タイ、3位香港。事業目的にある、アジア中心のインバウンドからの構造転換まではできていない。 ・欧米の方も別府でよく見かける。この事業をやった結果、生まれた成果がKPIに使われているのか。評価はもっと上でも良いのでは。	交付金対象期間は終了したが、3カ年で構築した旅行社等とのネットワークを活用し、引き続き、国内外からの観光客の誘客及び満足度の向上に向け、情報発信の強化及び旅行商品の造成等を実施したい。
				指標②	外国人向けホームページの海外からの閲覧数	90,596ページビュー	48,845ページビュー	5,400ページビュー					
				指標③	別府市内における日本人宿泊者数の増加人数	2,773,275人	989,628人	10,000人					
				指標④	外国人観光客案内所訪問者数	86,464人	52,602人	1,729人					
5	持続可能な温泉観光都市への挑戦	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	13,203,856円	指標①	宿泊客の平均宿泊数	1.09泊	1.10泊	1.10泊	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	各KPIを達成することができた。 腸内細菌検査で温泉効果を検証する実証実験を実施し、温泉入浴により病気になるリスクや腸内細菌叢に変化が起こることが証明され、別府ONSENアカデミアで発表した。 ユニバーサルツーリズム事業では、フォーラム開催や車いす等レンタルサービスの開始等により、受入体制の強化や認識の向上につながることができた。	基本目標を達成するために、効果があつた。	・ユニバーサルツーリズムは非常に重要。介護福祉学科の学生が車椅子体験活動を実施したがトイレが利用できなかったり、ユニバーサル化が進んでいない。 ・実証実験について、一つの研究だけを取り上げて、温泉が健康に資するとはなかなか言い辛く、研究の蓄積が必要。病気になるリスクを低減するの、あるいは、腸内細菌叢に有意な状況が生じることが示唆される、といった表現がよいのでは。	昨年度の取組を継続しつつ、各事業の向上を目指し取り組む。 また、引き続き温泉が与える好影響についての研究を深めるとともに、ウェルネスツーリズムとしてのブランディングを図る。
				指標②	別府・大分バリアフリーツアーセンターにおけるバリアフリーツアー相談件数	32件	103件	88件					
				指標③	別府市観光ウェブサイトアクセス数	1,058,864 PV	1,191,011 PV	1,111,807 PV					
				指標④	ウェルネスツーリズム関連旅行商品の商品化数	- 件	- 件	- 件					
6	文化観光の推進とアーティスト・クリエイター移住・定住計画	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	11,088,000円	指標①	アーティストやクリエイターの移住に関する相談件数	- 件	24件	20件	基本目標を達成するために、効果があつた。	指標①、指標②については目標値を上回ることができた。 指標③については、事業開始前の参加者数にWEB参加者数が多く含まれており、指標の設定にあたり工夫が必要であった。 (R2:参加人数27,265名(来場者数:4,924名、オンライン参加者数:22,341名) (R3:参加人数25,576名(来場者数:10,970名、オンライン参加者数:14,606名) (R4:参加人数15,542名(来場者数:10,966名、オンライン参加者数:4,576名)	基本目標を達成するために、効果があつた。	・担当課自己評価と同様、「基本目標を達成するために、効果があつた。」となった。 令和5年度以降も、芸術文化情報発信事業を継続して実施予定である。 令和5年度及び令和6年度は、アーティスト・クリエイターによる別府の魅力発信活動事業を実施する。 令和5年度から令和7年度にかけて、アーティスト・クリエイター創作等施設設置補助事業を実施し、アーティスト・クリエイターの関係人口や移住を促進するための環境整備を行う。	
				指標②	アーティストやクリエイターの移住者数	120人	16人	10人					
				指標③	ベップ・アート・マンズの参加者数	27,265人	-11,723人	2,000人					
				指標④	アーティストやクリエイターと協働して生まれた新規商品・サービス件数	- 件	- 件	- 件					
7	持続可能な地域を目指す中規模多機能自治区形成事業	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	12,199,678円	指標①	ひとまもり・まちまもり協議会交流事業参加者数	1,700人	2,200人	933人	基本目標を達成するために、非常に効果的であった。	[1]拠点の確保事業 地域の課題解決や人財育成等の拠点確保をPPP手法により誘致するため、公募条件発注支援業務に着手し、拠点確保に向けての取組を進めた。 [2]地域の担い手育成事業 先進地視察研修や各種交流事業を開催し、地域の「人材」発掘及び育成に寄与することができた。 [3]ひとまもり・まちまもり事業 デジタル推進事業、防災関連事業等を実施し、地域課題の解決に向けての取組を実施することができた。	基本目標を達成するために、非常に効果的であった。	・担当課自己評価と同様、「基本目標を達成するために、非常に効果的であった。」となった。	[1]拠点の確保事業 有休市有地を活用して収益施設と合わせて拠点となる場を整備する民間事業者を公募及び選定する。 [2]地域の担い手育成事業 地域の担い手を育成するため研修会や交流会、コーディネーターの配置 [3]ひとまもり・まちまもり事業 ひとまもり・まちまもり協議会が地域課題解決のための取組を実施 [4]コミュニティビジネス事業 モデルとなる拠点における温泉熱を利用した地域独特の調理法(地獄蒸し)、地元の食の提供や外国人留学生の多くが居住する地域の特性を生かした多国籍ガイドや地元住民による地域の路地裏散策などの観光案内・交流事業
				指標②	ひとまもり・まちまもり協議会交流事業実施数	10事業	19事業	6事業					
				指標③	移住に関する相談件数	254件	87件	76件					
				指標④	BEPPUサポーターズのメンバー数(増加値)	- 人	36人	50人					